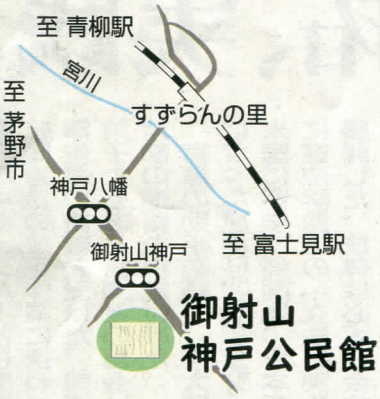
富士見町有形文化財

# 御射山神戸新町開発文書

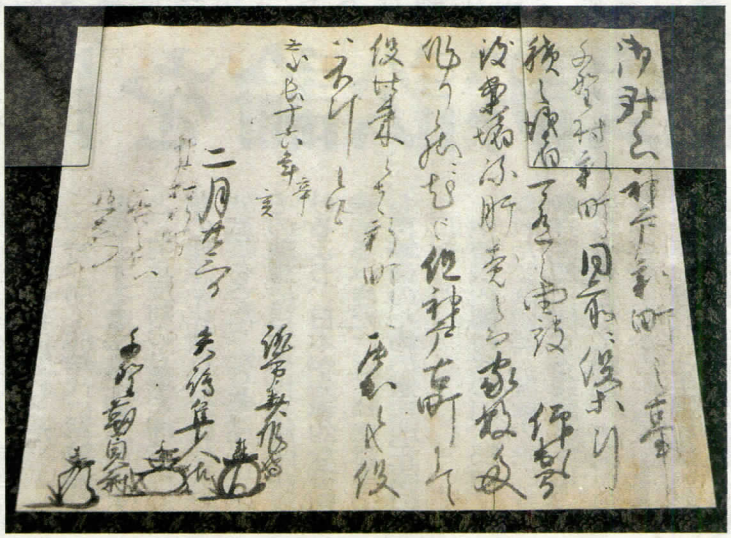
（富士見町）




1965年6月5日指定
所有者／御射山神戸区

江戸と地方を結ぶ主要道路の一つ甲州街道は当初、甲府までだった。慶長15（1610）年ごろ下諏訪まで延長。諏訪の甲州街道には蔦木、金沢、上諏訪の３宿が指定された。

いずれも宿の間が３里（約12キロ）ほどある長い道のりで、藩は旅人の便宜を図るため、中間の御射山神戸、千野（茅野）の街道沿いに旅人を対象にした日用品の小売商を行う「間の宿」として新町をつくった。

御射山神戸新町開発文書は慶長１６年、村の代表格の者に宛てた書き付け。「千野村と同様に諸役を免除するから皆が安心して新町へ移り住んで、沢山の家ができるように取り計らいをせよ」云々と、村の由来を伝えている。

神戸新町の街道沿いには徐々に家並みが整い、数軒の小商いの店などができた。農閑余業として中馬稼ぎをする者も多く、江戸時代を通じて役割を果たした。